

科目名 Course Name	介護実習 Practicum of Care-Work			ナンバリング No.	J1-011		
年次	1・2年	期別	通年	単位数	10	授業形態	実験実習
担当者氏名	久保由佳、和田晴美						
連絡方法	C-Learning で対応。または福祉棟 2F 研究室。オフィスアワーは担当教員より説明する。						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程は必修)						
関連 DP	DP1, DP2, DP3						
授業の概要と 到達目標	<p>介護実習は臨地で利用者との関わりを通して、専門職となるために必要な「実践力」を養うための体験学習である。地域における様々な場において、利用者の生活を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。さらに、利用者本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。実習は2年間で450時間行う。</p> <p>①利用者の自己選択と決定を尊重し、自立に根ざした介護の方法を選択できるようにする。  ②介護活動に参加し、基本的な日常生活援助に必要な生活支援技術を実践できるようにする。  ③生活場面での生活環境の改善と、福祉用具の知識を活用できるようにする。  ④利用者個々の生活リズムや個性を捉え、介護過程に沿った個別ケアを実践できるようにする。  ⑤地域における福祉施設の役割と機能を説明できるようにする。  ⑥関連する他職種と協力・連携しながら、チームの一員として行動できるようにする。  ⑦介護の専門性を追求し、自己の介護観を明確にできるようにする。</p> <p>その他、各実習の目標は「介護実習の手引き」に記載されているので、確認すること。</p>						
授業の方法	臨地での体験学習であり、学校の指定する実習施設で行う。また、実習毎にオリエンテーションおよび反省会(グループワーク)も実施する。						
学習成果	L01	介護福祉士に必要な専門知識・技術・態度を身につけることができる。					
	L02						
	L03	介護福祉の専門知識・技術・態度を統合し、利用者のニーズや個別性に応じて介護を実践することができる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	実習施設指導者と担当教員の双方から評価し、実習区分毎に担当教員よりフィードバックする。						
教科書/ 参考図書	最新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 介護実習の手引き その他、既習のテキストや参考書、各授業で配布した資料等、すべて活用する。						
履修上の留意点 やルール等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実習区分毎に履修し、すべての実習を終了したものに単位を認定する。</li> <li>●授業態度、出席や課題提出状況、各科目の成績などを総合的に勘案し、実習を認めないこともある。</li> <li>●新型コロナウイルス感染防止対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前、実習中は手指衛生、アルコール消毒、咳エチケット、マスク着用など、感染防止対策を徹底し、自己の体調管理に努める。</li> <li>・実習開始2週間前から終了2週間後まで、毎朝夕の検温と自覚症状の確認を実施し、記録を義務付ける。</li> <li>・感染拡大地域への出入り、不特定多数の人が利用し感染リスクが懸念される施設への出入り等、感染防止に配慮していない行動は慎み、行動履歴の記録も義務付ける。</li> <li>・実習開始前に抗原検査を実施する。実習施設によってはPCR検査を指示する場合もある。</li> <li>・37.0℃以上の発熱時や体調不良時は実習を中止する。その他、「新型コロナウイルス感染症に対応した実習ガイドライン」に則り、実習中止または中断等を判断する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策に関する内容は、介護総合演習の授業で説明する。</li> </ul> </li> <li>●冬期の実習前には感染対策として、インフルエンザの予防接種を受ける。</li> </ul>						
担当教員の実務 経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実務経験 学外講師(実習先の業務に携わる実務者) 介護現場における多様な経験を、介護の専門知識・技術を説明する時に活かす。</li> </ul>						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度					
レポート/作品					
発表					
小テスト					
試験					
その他	実習施設指導者と担当教員の双方から評価する。各実習目標に応じて、生活環境の理解、利用者の理解、生活支援技術の実践、介護過程の展開、実習態度等の内容で評価する。	40		60	
合計		40		60	

回数		授業計画
1	授業内容	1 年次 8・9 月【基礎実習 I】 計 10 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設での実習(通所施設での実習も含む)。 利用者の生活や環境の理解、コミュニケーションを含めた生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	実習施設の概要を調べ、記録する。
2	授業内容	1 年次 8・9 月【基礎実習 I】 計 10 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設での実習(通所施設での実習も含む)。 利用者の生活や環境の理解、コミュニケーションを含めた生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	利用者とのコミュニケーション場面を振り返り、プロセスレコードを記入する。
3	授業内容	1 年次後期【訪問入浴見学実習】 訪問入浴車による入浴介護の見学(学内にて実施)
	事前・事後学習	訪問入浴見学実習の感想と学びをまとめる。
4	授業内容	1 年次後期【居宅介護実習 I】 計 1 日間 訪問入浴事業所での実習。担当職員に同行する。
	事前・事後学習	訪問入浴サービス場面を振り返り、感想と学びをまとめる。
5	授業内容	1 年次 2 月【基礎実習 II】 計 5 日間 障害者支援施設・障害福祉サービス事業所での実習。 利用者の生活環境や状況、ADL の理解、コミュニケーションを含めた生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	実習施設の概要を調べ、記録する。プロセスレコードを記入する。
6	授業内容	1 年次 2・3 月【施設介護実習 I】 計 16 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・小規模多機能施設等の高齢者施設での実習。 利用者の情報収集を通して利用者理解、生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	実習施設の概要を調べ、記録する。担当利用者の選定。
7	授業内容	1 年次 2・3 月【施設介護実習 I】 計 16 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・小規模多機能施設等の高齢者施設での実習。 利用者の情報収集を通して利用者理解、生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	利用者とのコミュニケーション場面を振り返り、プロセスレコードを記入する。
8	授業内容	1 年次 2・3 月【施設介護実習 I】 計 16 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・小規模多機能施設等の高齢者施設での実習。 利用者の情報収集を通して利用者理解、生活支援技術の実践を行う。
	事前・事後学習	担当利用者の情報収集を行い、利用者記録および情報収集用紙に記録する。
9	授業内容	2 年次前期【居宅介護実習 II】 計 2 日間 訪問介護事業所での実習。担当職員に同行する。
	事前・事後学習	訪問介護サービス場面を振り返り、感想と学びをまとめる。

10	<b>授業内容</b>	2 年次 8・9 月【施設介護実習Ⅱ】計 21 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の高齢者施設での実習。 生活支援技術の実践および介護過程の展開を行う。
	<b>事前・事後学習</b>	実習施設の概要を調べ、記録する。担当利用者の選定。
11	<b>授業内容</b>	2 年次 8・9 月【施設介護実習Ⅱ】計 21 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の高齢者施設での実習。 生活支援技術の実践および介護過程の展開を行う。
	<b>事前・事後学習</b>	担当利用者の情報収集を行い、アセスメント用紙に記録する。
12	<b>授業内容</b>	2 年次 8・9 月【施設介護実習Ⅱ】計 21 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の高齢者施設での実習。 生活支援技術の実践および介護過程の展開を行う。
	<b>事前・事後学習</b>	介護計画を立案し、援助計画用紙に記録する。
13	<b>授業内容</b>	2 年次 8・9 月【施設介護実習Ⅱ】計 21 日間 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の高齢者施設での実習。 生活支援技術の実践および介護過程の展開を行う。
	<b>事前・事後学習</b>	計画実施状況の記録。援助内容を評価し、必要に応じて再アセスメントする。
14	<b>授業内容</b>	2 年次後期【居宅介護実習Ⅲ】計 2 日間 認知症対応型共同生活介護での実習。認知症高齢者に対する支援を行う。
	<b>事前・事後学習</b>	認知症高齢者への支援を振り返り、感想と学びをまとめる。
15	<b>授業内容</b>	1～2 年【全実習共通】 地域における生活支援の実践、多職種協働の実践
	<b>事前・事後学習</b>	職員の話や業務の見学または参加を通して、利用者の生活と地域との関わり、地域での生活を支える施設の役割、多職種協働の必要性和方法を考える。